

琵琶湖対策特別委員会 県外行政調査

1 調査日 令和元年11月25日（月）～26日（火）

2 調査の概要

11月25日（月）

（1）鳥取県森林組合連合会（鳥取県鳥取市）

調査事項：素材生産量の拡大に向けた取り組みについて

木材価格が低迷する中、森林を支える山村地域の過疎化、高齢化が進行し、健全で多面的な機能を発揮する森林を育成するために不可欠な施業は、全国的に遅れている。

このような中、鳥取県においては、平成8年度から「林業労働力確保に関する基本計画」を策定し、鳥取県版緑の雇用支援事業の実施などによって、年間50～70名の新規林業従事者を雇用し、森で働く若者の増加を図っている。

また、鳥取県では、施業の集約化を行うプランナーの育成や、高性能林業機械の積極的な導入、路網整備等によって素材生産量の増加を実現するとともに、管内にある八頭中央森林組合では、その林業経営が高く評価され、平成28年の農林水産祭において天皇賞を受賞するなどの先進事例を有することから、鳥取県森林組合連合会において、上記の取り組みに加え、林業労働力の確保や林業従事者の安全確保に向けた施策の調査を行った。



11月26日（火）

（2）島根県水産技術センター（島根県出雲市）

調査事項：資源管理型漁業を支援するための調査研究について

宍道湖におけるシジミ漁業は、漁業者によって自主的な資源管理が行われているが、

シジミの正確な資源量を推定し、動態を把握することは、その管理において重要である。

島根県水産技術センターでは、宍道湖におけるヤマトシジミの生息状況や生息環境を定期的に監視し、資源量や殻長組成を研究結果としてまとめ、漁業者にフィードバックするほか、宍道湖での貧酸素水塊のモニタリングや水草分布など、資源管理型漁業を補完するための調査研究に幅広く取り組んでいる。

本県では、現在、琵琶湖の固有種であるセタシジミの復活に向けて、琵琶湖湖底の貧酸素化等の研究に取り組み、在来魚介類のにぎわいの復活を図っていることから、同センターで行う資源管理型漁業を支援するための試験研究を調査した。



(3) 宍道湖漁業協同組合（島根県松江市）

調査内容：宍道湖におけるシジミ漁業の資源管理について

宍道湖でとれる水産物の9割以上はヤマトシジミであるが、宍道湖漁業協同組合で行われるシジミ漁業は、操業に関する入り口規制と、漁獲物に関する出口規制を設けて、乱獲防止体制を整えている。また、同組合ではシジミの生育に不可欠な酸素を水中に供給するための湖底耕うんなどの資源保護にも取り組んでいる。

本県では、現在、琵琶湖の固有種であるセタシジミの漁獲量増加を目指して、稚貝の放流や琵琶湖湖底の貧酸素化等に関する調査研究に取り組んでいることから、持続可能な琵琶湖漁業の実現に向けて、宍道湖漁業協同組合で行う資源管理型漁業を調査した。

